

## 演題『補綴治療の未来を拓くデジタル技術の可能性』

大学院医歯学総合研究科 口腔デジタルプロセス学分野 高市 敦士教授



### 概要

日本は超高齢社会を迎え、高齢者の人口と残存歯数の増加に伴い、75歳以上の欠損補綴治療の需要は増加している。一方で、歯科技工士数は年々減少しており、歯科医療の持続可能性のためにデジタル技術を用いた補綴装置製作の効率化が求められている。近年、デジタル技術の進展は著しく、チェアサイドおよびラボサイドの両面で義歯製作工程に応用されている。演者はこれまで、金属の積層造形技術である粉末床溶融結合法を用いた部分床義歯メタルフレーム製作に関する研究を進めてきた。本講演では、これまでの研究結果とともにデジタルデンティストリーの現状と今後の将来展望を概説する。

### ご略歴

2008年 東京医科歯科大学歯学部卒業  
2013年 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 部分床義歯補綴学分野 修了  
2013年 東京医科歯科大学 歯学部附属病院 義歯外来 医員  
2017年 東京医科歯科大学 歯学部附属病院 改革推進室 助教  
2023年 東京医科歯科大学病院 義歯科 講師  
2024年 東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 口腔デジタルプロセス学分野 教授 現在に至る

## 演題『歯学教育の最新動向と歯学教育研究』

大学院医歯学総合研究科 歯学教育システム評価学分野 則武 加奈子教授



### 概要

歯学部教員の業務は、言うまでもなく研究・教育・臨床にわたり、極めて多忙である。そうした中において、近年、歯学教育を取り巻く環境には著しい変化が生じている。たとえば、共用試験（OSCE・CBT）の公的化、歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂、歯科医師臨床研修の到達目標に関する大幅な制度改正などが挙げられる。加えて、本学においては新カリキュラムの施行および大学統合に伴う諸改革が進行中である。本講演では、明日からの教育活動に資する歯学教育に関する情報を先生方と共有したい。また、これまで私が取り組んできた歯学教育に関する研究についても、併せて紹介する。

### ご略歴

2006年 東京医科歯科大学歯学部 卒業  
2011年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 インプラント・口腔再生医学分野 修了  
2011年 東京医科歯科大学歯学部附属病院 インプラント外来 医員  
2012年 東京医科歯科大学歯学部附属病院 歯科総合診療部 助教  
2016年 厚生労働省医政局歯科保健課歯科医療技術参与（～2018年3月）  
2016年 統合教育機構事業推進部門（兼任）（～2024年9月）  
2019年 東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科臨床研修センター副部門長（兼任）  
2021年 東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科総合診療部 講師（キャリアアップ）  
2024年 東京医科歯科大学病院 歯科総合診療科 准教授  
2024年 東京医科歯科大学病院総合教育研修センター副センター長 同 歯科教育研修部門 部門長  
2025年 東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 歯学教育システム評価学分野 教授 現在に至る